令和８年度　第６回学校経営研修会　１０/７

10 月７日（水)、県教育記念館において、標記の研修会が行われました。開会の挨拶では、大島　一行　県小学校長会会長より、まず、第 78 回全国連合小学校長会　北海道大会において参加して、広く全国小学校との情報交換が行われたとの報告がありました。次に、「全国学力・学習状況調査の結果から」について、大きく３点の話がありました。

１点目は、富山県の結果は全国並みであったこと。富山県はこれまで上位であったことを考えると、下がったと考えられる。非認知能力の育成を行っていくためには、「各教科の授業が好きであるか」ということが大切である。富山県の小学校は大変働きやすくなっていると感じているが、子供にとって楽しい授業の追究をすることに苦痛を感じている教員もいる。働き方改革に取り組んでいるが、授業づくりに情熱をもって取り組んでほしい。

２点目は、「授業への取り組み方の変化」について。我々の世代は、「授業で子供たちを楽しませたい」という情熱があった。かつて教育実習をしていたときの指導教官は、熱意に溢れておられた。「新しいことをしたい、教材開拓をしたい、授業で楽しませたい」という熱意があった。学期、年に一度、取り組むことは大切ではないか。授業や勉強が楽しいと思えたら、学びを楽しむ素地ができる。先生が授業を創るところを心から楽しんでいた。今、探究や非認知能力と言われているが、昔から育てていた。「教師が授業を楽しんでいるか」ということを考えてみる必要があるのではないか。

３点目は、高岡市小教研理科部会実技研修会で招聘した松本大学の澤柿教授の話のこと。松本教授は自ら作成したキットを持ってきてくださった。そのような工夫を日々の授業ですることによって、目に見えないが学力がつくのではないか。富山の教育は、仕掛け満載の授業で、対策をしなくても「上位」だったのではないか。自らが、いろいろな立場から模索する必要がある。自由さがあること、楽しいと思えることが大切なのではないかということでした。

各部会からの報告、連絡の後、滑川市小学校長会より、「探究・科学」科学の時間の取組について　と題した提案を基に、研修を行いました。滑川市では、平成 29 年から、小中一貫教育として、特別の教育課程「科学の時間」を実施し、各校の実践を市内全体で共有し、研究を積み重ねているとのことでした。そして、各校の様々な実践研究を集約化させ、共通利用が図られるよう、市教委、市教育センターと協力しているとの提案でした。その後の話合いでは、「探究学習は、一人一人の『好き』が出発点となる」「探究活動の指導・支援方法を学ぶ研修の充実は大切である」「課題づくりは、次期学習指導要領のマイ探究につながっている。今後の学校の在り方につながる先進的な取組である」等の意見が出ました。「課題づくり」の難しさを認識しながら、教師がどのように関わるのかを考えるのが今後の学校ではないかと締めくくられました。